

八. 棕橋荘の押領事件に端を発した「承久の変」

棕橋荘は、水上交通の要衝・神崎をかかえているためでしょうか、また、古くから開けた地区であったためでしょうか、その支配関係は、為政者の注目するところとなり、その支配関係を巡っての争いで、度々歴史の表舞台へ引きずり出される結果になりました。

棕橋総社の拝殿横に亀菊天満宮という社（写真）があります。これは文政年間に亀菊



棕橋総社 亀菊天満宮

の遺徳を偲んで建てた社ですが、この社がこの棕橋荘が原因で起こったといわれる「承久の変」の遺物の一つになるのです。後鳥羽上皇の側室亀菊が棕橋・長江両荘を治めていましたが、この地の地頭が両荘を押領しました。このことを聞かれた後鳥羽上皇が鎌倉幕府へ「この地頭を辞めさせるように」との勅令を出されましたが、幕府にとっても幕府の体制が定まっていない時期でもあったため、このことを聞き入れることが出来ませんでした。そのこともあって、後鳥羽上皇は鎌倉幕府追討の院宣を出されました。院宣が出されたことを知った鎌倉幕府の執権北条義時が京に大軍を送り、上皇方を一網打尽にしました。その後、江戸時代の終わりまで武家政権が続くのです。

また、棕橋城（尼崎市戸ノ内治田寺境内（写真）にあったと「摂陽群談」に書かれています）をめぐる攻防戦は、応仁の乱に始まり、一向一揆までの七十年に及ぶ戦闘でした。



治田寺